



連載100回! やったわね!



ここまで苦しい道のりだったね...



私たちががんばったよね...



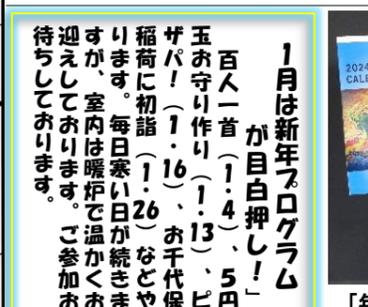
今日は朝まで飲むわよ!



柔らかいパンにあまーい生クリームとフルーツのやさしさ。まるで竹山先生そのもの。



選曲理由はせこいが歌はしっかり熱唱!



「年男の飯田です」

デイケア

竹山先生と楽々スイーツ
11月17日(金)、竹山先生がデイケア初登場。メンバーらとフルーツサンドを作った。
ミカンやキウイ、ぶどうなど旬のフルーツを生クリームとともに食パンにサンド。竹山先生の包丁捌きもさまになっており、切り口の断面もカラフルな「萌え断」サンドが完成した。「萌え断」も好評で、メンバーからは早速第2弾を期待する声も聞かれた。
女子力の高さを見せつけた竹山先生も「次は何を作ろうかなあ」と満更ではない様子だった。

デイケア

紅白歌合戦
12月10日(日)、デイケアでは一足早く紅白歌合戦が開かれた。
今年過去最多28名がエントリー。それぞれが自慢の持ち歌を披露すると、自然に拍手や歓声があがるなどライブ会場さながらの熱気が盛り上がり包まれた。またメンバーに負けじとスタッフも参戦。ブリーフ&トランクスの『石焼イモ』を歌った安藤朋美さんは「音外してもバレないよーにみんなが知らない曲にしたわ!」とせこい理由の選曲ながら会場を盛り上げていた。

デイケア

カレンダー完成!
完成しました! デイケアカレンダー2024!
8作目となる今年も表紙は干支のちぎり絵。チラシなどをひたすらちぎっては貼り付け、見事な竜の絵が完成しました。
手にした人たちが毎月カレンダーをめくるのが楽しみになるよう、まる1年かけて完成させたこのカレンダー。表紙以外にも見どころ満載です。

◆養南猫部活動報告

この度、冬を迎えるにあたり、DIYに長けている我が猫部の頼もしい部員2名により、猫たちが寒さを凌げるよう心を込めて手づくりの猫小屋を完成させた。
製作責任者の高橋憲治事務長は、「猫たちを少しでも寒さから守らなければ」と使命感溢れる優しい表情で話した。



工務店さながらの腕前を見せる2人

1月は新年プログラムが目白押し!
百人一首(1.4)、5円ザバ!(1.16)、お千代保稲荷に初詣(1.26)などやります。毎日暖かい温かみ迎えております。ご参加お待ちしております。

◆クリスマス会でサンタ現る

一昨年、南病棟ではコロナ蔓延のために惜しくも開催できなかったクリスマス会を、昨年は患者さんの思いも届き二年振りに開催することに。
格付けゲームやハンドベル演奏など季節を感じながら参加者が場を楽しんでいる中、サプライズゲストにサンタとトナカイが登場! 見覚えのある顔は大盛り上がり。素敵なプレゼントを配り愉快地去っていった。

「養南スポーツ」
養南新聞創刊の8年も前にその前身となる新聞があったのを覚えているだろうか。その名も「養南スポーツ(養スポ)」。
かつて病院に野球部が存在していたことを証明する貴重な資料だ。平成17年9月から翌年9月までの1年間のみ発行された結果などが中心だが、職員いじりにはさすがにこの頃存在していたことがわかる。
当時を知る関係者は「そういうえば頼みもしないのに話所の壁に貼られてたわ。いつの間にか廃刊になってたわね」と話した。



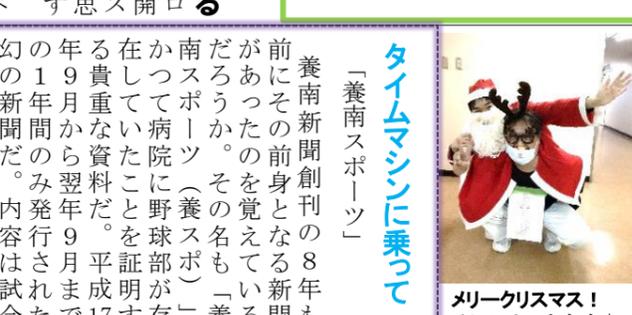
スポーツ新聞の真似をして職員の間でゴシップを載せて廃刊に追い込まれたという

次回の養南新聞は令和6年3月号になります。

羅笑門

今回は相談課で勤務する武田奈々さん(26)を紹介しします。休みは何を? A 元気に外出ですね。今はカフェ巡りにハマっています。
Q クリーム増し増しとかチョコソース追加してみたいな? A いえ。「純喫茶」ですね。ブラックコーヒーを楽しんでいます。
Q 激シブ! 本格派だったのね。 A 湯気の立つ香り高さ、奥深い味わいに目覚めたら薄茶色には戻れませんが! (行きつけのマスター! ありがと!)
Q 愛情は伝わりました。なら海津でのおすすめの店ってある? A ギターが飾ってあって音楽を楽しめる喫茶

店で:名前がちょっと: Q 出てこんのかい! 将来は美味しいコーヒー淹れられる精神保健福祉士です? A そうですね。働きやすい環境の中、刺激しあえる仲間がいる中、まずは信頼関係をしっかりと築いて「誰か為」の精神で頑張りたいです。



メリークリスマス! そしてよいお年を★



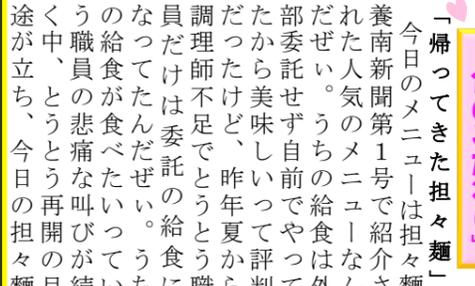
養南新聞ついに100号!

平成26年1月に創刊された小紙が足掛け10年、ついに100号達成の金字塔を打ち立てた。
「読まれることなく捨てられる病院広報誌を変えたい」その一念からはじまった。
「まず読んでもらいたい」というのは病気の広報誌というものは病気に関する特集や医師の勤務表、各部署の紹介などで構成され、基本的に真面目な内容で埋め尽くされる。それはそれでいいのだが、思い返すと隅から隅まで読んだことなど無いという人が殆どではなからうか。
今から10年前、第1回の広報誌編集会議で「まずは捨てられずに読んでもらうことが目標そう」そんな声が上がった。
広報誌のタイトルは「養南新聞」



「養南新聞」を手に診察を待つ様子(やらせ)

「食のこだわり」
「帰ってきた担々麺」
今日のメニューは担々麺。養南新聞第1号で紹介された人気のメニューなんだけい。うちの給食は外部委託せず自前でやっていたから美味しいって評判だったけど、昨年夏から調理師不足でとうとう職員だけは委託の給食になってたんだぜい。うちの給食が食べたいっていう職員の悲痛な叫びが続く中、とうとう再開の目途が立ち、今日の担々麺

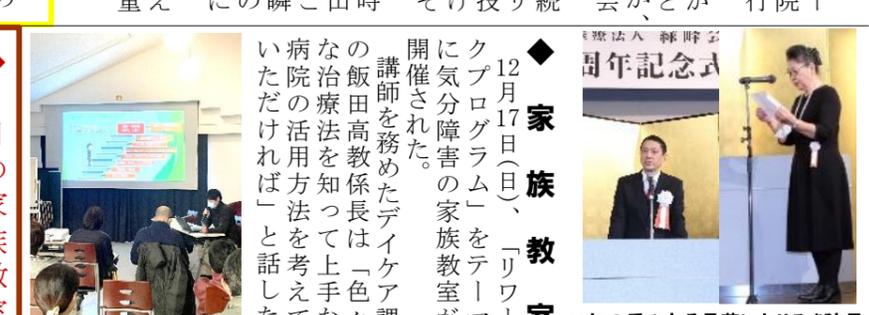


しかも2つ同時にだぜい。

名物コーナー「幻のコーナー」
この100回で、新人職員をいじりつつ紹介する「羅笑門」や病院の隠れたトビックスを紹介する「養南ミシュラン」など名物コーナーもできた。第6号から始まった小紙の4コマ「ルンルンみかろん」も一度も落とすことなく連載し続けた。
編集長は「コロナでネタがなくなり隔月発行に追い込まれたが、それでもやめずに続けてきた自分たちを褒めてやりたい。この10年で約50人が記者として新聞に携わった。涙ながらに話した。」

創立40周年記念式典

12月5日(火)大垣フォーラムホテルにて養南病院40周年記念式典が執り行われた。式典では冒頭関谷院長が開院から今に至る歴史と今後の展望を話したほか、来賓の田口真源岐精協会長が祝辞を述べた。
同時に行われた永年勤続表彰では山内美代子リハ部長と橋田勝美医療技術部長が40年表彰を受けたほか、計28名がそれぞれ表彰を受けた。
40年というのは開院当時からであり、代表として山内部長が「振り返るとこの40年、長いようで一瞬だった気がする。今日の病院の発展をみるたびに頑張ってきたよかったです。残りの期間、期待に応えるべく努力したい」と重みのある謝辞を述べた。



40年の重みある言葉にたじろぐ院長

◆1月の家族教室

第一部・講演
「日常生活のケアと家族の接し方」
講師:林昌吾OT課長(平成医療短期大学 臨床教授)
第二部:グループワーク
日時:1月21日(日) 14時~16時
場所:デイケアセンター
対象:統合失調症 患者様とご家族



発行所
社会医療法人 緑峰会
養南病院
〒503-0401
海津市南濃町津屋1508
☎(0584)57-2511
Fax(0584)57-2513
http://www.younan.or.jp
younan@ogaki-tv.ne.jp

支援アパート
2023年7月完成
入居者募集中!
次のステージを目指してみませんか?
★入居については主治医にご相談ください